老年看護学実習

実習要綱

老年看護学実習

Ⅰ　実習目的

住み慣れた地域でその人らしく暮らすために、対象を包括的に理解し高齢者の特性を活かして看護を実践する力を養う。

Ⅱ　実習目標

1　高齢者の特性を包括的に理解し、地域で暮らす対象がねがう生活に近づける生活援助ができる。
2　対象との関わりや対象を取り巻く人々との連携から、自己の高齢者観を深めることができる。
3　高齢者が住み慣れた地域で暮らすために必要な支援の実践から、老年看護の役割について考えることができる。

Ⅲ　実習の構造

科目名	単位・時間数	実習時期
老年看護学実習Ⅰ	２単位　90 時間	２年生後期
老年看護学実習Ⅱ	３単位　90 時間	３年生

老年看護学実習　Ⅰ

Ⅰ　実習目標

1　高齢者の特性を包括的に理解し、地域で暮らす対象がねがう生活に近づける生活援助ができる
2　対象との関わりや対象を取り巻く人々との連携から、自己の高齢者観を深めることができる

Ⅱ　評価規準（めざす姿）

1　高齢者の身体的・心理的・社会的機能の特性を捉え、対象の生活に関連付けて理解できる。
2　対象の強みを活かし安心して生活するための援助ができる。
3　対象がねがう生活と実施している援助を関連付けている。
4　実習での学びから自己の高齢者観を深めることができる。
5　医療者として看護の対象や仲間の尊厳、安全を護る行動がとれている。

Ⅲ　単位と時間数及び実習場所

２単位 90 時間（８：30～16：15　９時間換算　×　10 日）

	実習場所	実習時間	実習時期
病院実習	医療法人社団健寿会　山の上病院	90 時間	２年生 後期
	独立行政法人地域医療機能推進機構　清水さくら病院		
	共立蒲原総合病院		
	静岡市立清水病院		

＊前半組は９月・後半組は１２月

Ⅳ　学習内容及び実習方法

学習活動	学習内容 ・学習方法	評価規準	評価資料
対象の生活に影響している要因を見出す	◆既習の講義・演習・実習を振り返ることで、高齢者の特徴を「老いと成熟」を意識して以下の視点で捉える 1）身体的変化　2）心理的変化　3）社会的変化 ◆対象との関わりから以下の内容を意識することで、高齢者の特徴が対象の生活に及ぼす影響について理解する 1）老年期の発達課題・到達度 2）高齢者の身体的変化・特徴が対象の生活にどのように影響しているのかを理解する ・対象の日常生活への影響（ＡＤＬ、IADL、認知力） ・対象の抱えている疾患理解（経過・既往歴・治療など） ・１日の活動状況とその反応 ・入浴、食事、排泄状況、支援の実際 3）高齢者の心理的変化・特徴が対象の生活にどのように影響しているのかを理解する ・対象の日常生活への影響（意欲など） ・対象や家族の思いを知る ・対象の価値観（人生観・死生観）を知る 4）高齢者の社会的変化・特徴が対象の生活にどのように影響しているのかを理解する	高齢者の身体的・心理的・社会的機能の特性を捉え、対象の生活に関連付けて理解できる	面接 事前学習 一日の実習計画 患者記録

	・生活環境(家族・経済・住居・支援)の把握と対象者への影響 ・家族や地域での役割とその変化の把握 【学生の動き】 ◆病棟オリエンテーション ・実習病院・病棟の説明およびリハビリ室を含む実習環境の確認 ・病棟の特徴（病床数・入院患者の発達段階や健康障害、治療)、職員構成、看護体制についての理解 ・病棟の業務の流れと学生の動きの確認 ・病棟の構造・環境の見学、学生の使用物品(場所・使用方法)の確認 ・カルテや電子カルテ使用の注意点について確認 ◆受けもち患者理解 ・受け持ち患者の決定、指導者と共に挨拶をする ・患者の１日のリハビリを含めた流れの理解 ・患者の安全を守るための方法や安静度の理解 ・カルテや電子カルテから患者の情報収集 ・受けもち患者の経過・機能障害・治療の理解、情報の整理 ・入院前の生活の様子		
高齢者の特性を活かし尊重した援助の実践をする	◆対象が持つ可能性と危険性をふまえて、強みを活かした生活援助を実践する ・対象のできる力を見出す ・対象の日常生活における危険性とそれを増す要因を理解する ・臨床スタッフと相談、調整する ・ミーティングへの参加、意見交換、助言を得る ・対象の反応から行った援助を評価し、強みを活かす援助について考える ・リハビリなど必要な活動と身体機能・心理・社会面との関連理解 【学生の動き】 ◆１日の流れの確認 ・受けもち患者の１日の日常生活や援助、リハビリスケジュール、検査などの把握 ・本日の目標・計画の相談、担当看護師からの助言をうける。 ◆受け持ち患者理解 ・環境整備 ・受けもち患者とのコミュニケーション、バイタルサイン測定、全身状態の観察 ・清潔援助の実践 ・受けもち患者の生活援助の実施を通して発達課題と照らし合わせた患者理解 ・リハビリテーションの同行、受けもち患者の機能障害 ADL・IADL の把握 ・受けもち患者の ADL・IADL から生活のしにくさや、今後の生活への期待を把握する ・集団体操、嚥下体操参加 ・受けもち患者の強みや可能性から、日常生活援助を考え実施する ・カルテや電子カルテから情報収集 ・受けもち患者個人の思い・価値観について理解	対象の強みを活かし安心して生活するための援助ができる	面接・実習状況 一日の実習計画 患者記録 ミーティング 時間調整・相談状況

自己の実践が患者がねがう生活にどのように影響しているのかを振り返る	◆対象と対象を取り巻く人たちとの関わりから、以下の内容を意識することで対象がねがう生活についてアセスメントする ・ニードの充足（マズロー、ヘンダーソン） ・対象の生活習慣、リズム ・入院前・中・後の生活 ・社会資源の利用状況・今後利用可能な社会資源 ・対象の今後の生活へのねがい・期待 ・家族のねがい ・ねがいを阻む要因 ・対象や家族が持つ強み ◆対象の地域での生活をイメージするために、以下の視点を意識する ・対象の生活の実際から、必要な社会資源を考える ・対象の保健・医療・福祉制度の利用状況と家族の思いの理解 ・対象の家族看護の状況把握 ・多職種連携の実際を知る ・担当者会議・リハビリカンファレンス・家族会議・認定調査などへの参加 ・対象の生活環境の実際の理解 ◆実践の振り返りを以下の視点で実施する ・自己の実践が、対象にとってどのような意味があったのか、対象の変化や反応を捉える ・捉えた対象の変化や反応から、自己の援助の意味を考える 【学生の動き】 ◆アセスメントから生活支援の実践 ・対象がねがう生活に向かうための看護援助計画の立案、実施、振り返り、修正 ・対象にとっての援助の意味を考える ◆スタッフ・多職種と患者理解の共有 ・スタッフカンファレンス、リハビリカンファレンス、担当者会議への参加 ◆翌日への確認 ・１日の実習の振り返り、疑問への解決 ・情報収集した内容の整理 ・翌日の自己の行動の確認、準備	対象がねがう生活と実施している援助を関連付けている	面接 一日の実習記録 患者記録 ミーティング
自己の高齢者観を表現する	・対象との関わりを通して、自己の高齢者観を深める ・高齢者の特性を活かした生活援助の実践を振り返り、自己の考えをまとめ表現する ◆ミーティング・プロセスチャートの発表 ・仲間の意見や発表から自己の高齢者観の視点を広げる ・スタッフや指導者が抱いている高齢者観に触れる機会を得る 【学生の動き】 ◆学生ミーティング テーマ：学生主体でテーマを決める 実施頻度も、グループメンバーで決める ・臨床指導者・教員より指導・助言を受ける	実習での学びから自己の高齢者観を深めることができる	プロセスチャート ミーティング 実習記録

	◆プロセスチャート ・プロセスチャートを作成してくる 最終日の午後：プロセスチャート発表 ・作成したプロセスチャートを使い、自己の高齢者観について、実習での経験を交えて発表する ・メンバー同士の意見交換、更なる高齢者理解を深め合う ・臨床指導者・教員より指導・助言を受ける		

◆『 プロセスチャートの発表にむけて 』

1）ねらい

・実習最終日を迎え、老年期にある対象への看護実践を通して「その人らしさが見えた場面」から、高齢者がどんな存在であるのかを意識して、思ったことや考えたことを振り返り、自己の学びのプロセスをひもといてみる。

・ワークで自己の学びを表現し、仲間の学びを知る。また意見交換を通して、自己の高齢者観について考えを深める機会とする。

2）方法

（1） 毎日１日の**実習計画表を記入した後**に、「対象と関わってその人らしさが見えた場面」を挙げて、場面を踏まえて思ったことや考えたことをテーマに１枚のラベルを記入する。
これは自分の学びの足あとを残していくつもりで書いていく。10 日間の実習を終えた時の自分（プロセスチャートをつくる時）へのメッセージになります。

（2）ラベルの書き方

・はじめに月日を記入し、対象と関わってその人らしさが見えた場面を「　　～の場面」と記入。場面はその状況がわかるように記入する。

・場面から抱いた思い・考えを具体的に他の人が読んでも意味がわかるように、２０～５０字の一文で書くように心がける。

・ラベルの下には、グループ、実習場所、氏名を記入する。

記入例）

○月○日　「こぼしてイライラしながらも最後まで自分で食べようとしていた場面」　　若いころに出来ていたことが出来ない悔しさや辛さや情けなさを感じながらも諦めずに頑張る強さもあるのだと思った。

○G　◇◇病院　清水花子

（3）書いたラベルの使用方法

黄　色　―　１日の実習計画表の右下に貼る。
ピンク　―　実習のまとめの日にまとめて担当教師に提出する。
白　　―　最後にプロセスチャートに使用するため、無くさないように保管しておく。

（4）病棟実習終了日プロセスチャートの作成。

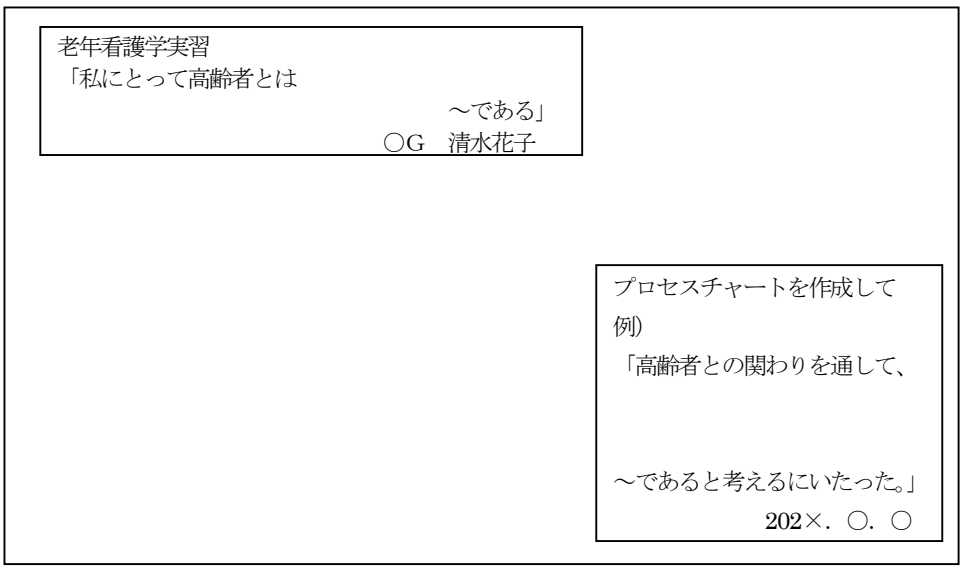
・９枚のラベルを読みその時々に思ったこと・考えたことを思い起こす。
それらを手がかりに、自分の考えや意識がどう変化していったか見つめ振り返る。

・Ａ３用紙にラベルを配置し、図解（チャート）を作成していく。

・「プロセスチャートを作成して」というテーマでこのプロセスチャートを作りながら、自分自身が実践を通して何を学んだか（学ばなかったか）、どう変化したか（しなかったか）を、素直に文章に表現をする。
・最後に図解（チャート）をあらわすタイトルをつける。
・左上にはタイトル・グループ・名前を、右下にはプロセスチャートを作成しての文章、日付を書いて完成させる。
・表現の形式は自由。

イラストを書き込んだり、内容を分類して表を作ったり、矢印を使ったり、様々な色を使ったり、自分の学びが表現できるように、工夫をこらして自分らしい作品を完成させる。

例）



＊Ａ３用紙は縦でも、横でもよい

・作成したプロセスチャートをグループメンバー、臨床指導者、担当教員分の必要枚数をコピーする。
（＊コピーする際に、周囲が欠けてしまわないように、用紙の使用方法を考えると良い）

（5）病棟実習最終日にプロセスチャートの発表を行い、意見交換を通して学びを深める機会とする。

Ⅴ　提出記録

① 実習評価表
② プロセスチャート
③ 老年看護学実習Ⅰ記録Ⅰ・記録Ⅱ（日付順にする）
④ 老年看護学実習Ⅰ記録Ⅲ・記録Ⅳ・記録Ⅴ
⑤ 体温表
⑥ 作成した資料類など
⑦ 事前学習

・実習記録提出日に、記録を全てファイルに閉じて提出する。
＊最終記録の提出は指定された日時までに行う。

＊実数中に使用したメモ帳・不要なラベル（ピンク）・カンファレンスで使用したコピー記録は、ファイルとは別に担当教員に提出する。

＊技術チェックリストの確認が必要な場合は、提出ファイルには挟まず、担当教員に相談する。

Ⅵ　実習計画表

実習時間 8:30～16:15　　ミーティング 15:00～15:30

	1日目	2日目	3日目	4日目	5日目
実習内容	病棟オリエンテーション ・受けもち患者の決定・挨拶 ・情報収集 ⇒患者の1日のスケジュール・病棟での看護問題・日常生活の様子などを指導者と共有する	・受け持ち患者理解、 ⇒ニード・疾患・治療など ・看護師と共に日常生活援助の実施	・看護師と共に患者と関わることで、対象の抱いている、思いやねがう生活を意識する ・受けもち患者のねがう生活を阻むものや強みに目を向ける	**看護の方向性相談・発表** 対象の思いやねがう生活に目を向けて、対象の暮らしを支えるために必要な看護の方向性を導き出す 看護の方向性をグループメンバーや指導者と共有する。 ※実施時間・場所・方法は病院や病棟ごとに相談して決定する	**自己の中間評価日**
記録		1日の記録 患者記録	1日の記録 患者記録	1日の記録 患者記録	1日の記録 患者記録
ミーティング	ミーティングのテーマ・実施頻度は学生主体で決定する				

	6日目	7日目	8日目	9日目	10日目
実習内容	・自己の計画した援助の実施・評価・修正 ・受けもち患者に実施した援助から看護の意味を考える				午前まで病棟で生活援助を実施 午後：プロセスチャートの発表
記録	1日の記録 患者記録 中間評価	1日の記録 患者記録	1日の記録 患者記録	1日の記録 患者記録	1日の記録 患者記録 プロセスチャート
ミーティング			対象がねがう生活を意識して自己の実践を振り返る		プロセスチャート発表

記録提出　　月　　日　　時　　分まで

静岡市立清水看護専門学校　老年看護学実習Ⅰ　評価表　　学籍番号：　　氏名：

学習活動	具体的な評価規準	観点	評価資料	評価基準			
				すばらしい	よい	もう少し	今一歩努力を要する
対象の生活に影響している要因を見出す	高齢者の身体的・心理的・社会的機能の特性を捉え、対象の生活に関連付けて理解できる	対象理解 探求心	面接 一日の実習計画 患者記録 事前学習	一般的な高齢者の特徴を捉え、対象の生活と比較することで、生活に影響している要因を見出すことができる　20	一般的な高齢者の特徴を捉え、対象の生活と比較して考えることができている　13	一般的な高齢者の特徴を「老いと成熟」に視点を置いて捉えている　7	一般的な高齢者の特徴を「老い」に視点を置いて捉えている　3
対象の特性を活かし尊重した援助の実践をする	対象の強みを活かし安心して生活するための援助ができる	対象理解 実践力 探求心 調整力 倫理観	面接・実習状況 1日の実習計画 患者記録 ミーティング 時間調整・相談状況	対象の強みを活かした援助をすることで、尊重した援助の方法を見出し実践している　20	対象が持つ可能性と危険性を踏まえた生活援助ができる　13	対象の身体機能を把握して、日常生活における危険性とそれを増す要因を捉えている　7	対象の身体機能を把握して表現している　3
自己の実践が患者がねがう生活にどのように影響しているのかを振り返る	対象がねがう生活と実施している援助を関連付けている	対象理解 探求心 倫理観	面接 一日の実習記録 患者記録 ミーティング	対象と対象を取り巻く人たちとの関わりから地域で暮らす対象がねがう生活を見出し、自己の看護実践が対象に及ぼす影響について考えている　20	対象と対象を取り巻く人たちとの関わりから、対象がねがう生活を見出し、自己の看護実践を振り返っている　13	対象と対象を取り巻く人たちとの関わりから、対象がねがう生活を見出している　7	対象との関わりから、入院生活で対象がねがう生活を見出している　3
自己の高齢者観を表現する	実習での学びから自己の高齢者観を深めることができる	探求心 倫理観	プロセスチャート ミーティング 実習記録	実習での学びを活かしてプロセスチャートで自己の高齢者観を表現し、仲間と意見交換することで、さらに深めることができる　20	実習での学びを活かしてプロセスチャートで自己の高齢者観を表現することができる　13	プロセスチャートで自己の高齢者観を表現している　7	自己の高齢者観を表現している　3
看護の対象や仲間の尊厳、安全を護り、医療者として誠実に行動する	医療者として、看護の対象や仲間の尊厳、安全を護る行動がとれている	倫理観	日常の行動 実習の様子 課題等提出物 出席状況 面接	医療者として看護の対象や仲間の尊厳、安全を護る必要性を理解し、適切な行動を取っている　20	医療者として看護の対象や仲間の尊厳、安全を護る行動を心がけている。至らない時は学び、行動を変えている　13	社会的規範は守るっているが、看護の対象や仲間の尊厳、安全を護る意識が低い　5	自分の行動が看護の対象や仲間を危険に曝している　1

欠課時間
(　　)時間／90時間

	学生	指導者
中間評価	点	点
総合評価	点	点

実習指導者サイン

担当教員サイン

老年看護学実習　Ⅱ

Ⅰ　実習目標

1　高齢者が住み慣れた地域で暮らすために必要な支援の実践から、老年看護の役割について考えることができる。

Ⅱ　評価規準（めざす姿）

1　複数患者の関わりから見えたその人らしさを援助に活かすことができる。
2　継続する看護実践のために看護チームでの協働ができる。
3　目的をもって対象を取り巻く人と関わり、得られた情報を活用できる。
4　地域でその人らしく暮らしていくための老年看護の役割を見出すことができる。
5　医療者として常に看護の対象や仲間の尊厳、安全を護る行動がとれている。

Ⅲ　単位と時間数及び実習場所

3単位90時間（8：30～16：15　9時間換算 ×　10日）

	実習場所	実習時間	実習時期
病院実習	医療法人社団健寿会　山の上病院	90時間	3年
	独立行政法人地域医療機能推進機構　清水さくら病院		
	共立蒲原総合病院		
	静岡市立清水病院		

Ⅳ　学習内容及び実習方法

・学生2～4人での1チームとして、チームで継続的な看護実践を行う。
・初日に受けもち（担当）患者を決定しプラマリーとして個別性を意識した看護計画を立案する。
・立案した看護計画を基にチームで下記の日程で継続看護の実践を行い、振り返り・修正を行っていく。
例）患者A氏に対する学生の動き（学生が3名の場合）

日程	担当学生	内容
1日目	学生A	・受けもち患者決定、挨拶（挨拶はチームで出向く） ・受けもち患者の情報収集、患者の問題点・ケアの聴取、コミュニケーション ・プライマリーとしての看護計画の立案
2・3日目		・立案した看護計画の実践・評価・修正・報告・共有
4・5日目	学生B	・申し送られた患者の看護計画の実践・評価・修正・報告・共有
6日目	学生A	・申し送られた情報から、看護計画の実践・評価・修正 ※他患者を受け持つことで見えてきた、受けもち患者の特性やねがいをより深めることで個別性を見出し、経過の変化や地域での暮らしも意識し、看護計画の確認・修正を行う
7・8日目	学生C	・患者の個別性への振り返りから、改めて老年患者理解を深める
9・10日目	学生A	・実習終盤に向けて、対象の個別性を意識することで、安心してその方のねがう生活が送れるように生活支援を整える ・患者が地域で生活するために必要な多職種・家族・社会保障・環境を改めて意識し、目的をもって対象に関わりのある方から情報を得て、その人らしく生きていくための看護に繋げていく。 ・日々、表記してきた看護実践の場面から作成したポートフォリオを使い自己が見出した老年看護の役割の発表を行う。

※学生が２名・４名の場合は下記を参照

日程	2名の場合	4名の場合	
1日目	学生A	学生A	学生C
2・3日目			
4・5日目	学生B	学生B	学生D
6日目	学生A	学生A	学生C
7・8日目	学生B	学生B	学生D
9・10日目	学生A	学生A	学生C

・立案した看護計画・評価（SOAP）は患者ごとファイルにとじ、次の担当学生に渡していく。
・渡された担当学生は、そこに計画されている看護計画を継続し実践していく。
・実践後患者の反応や準備において不足があれば看護計画の修正を行っていく。
・看護援助実践後、必要な助言を得て、看護計画への修正をしていく。
・学生ミーティングの時間に看護の申し送りを行い、学生チーム内で情報を共有し翌日に繋げていく。

学習活動	学習内容 ・実習方法	評価規準	評価資料
高齢者の特徴や受けもち患者の個別性を尊重した援助の実践をする	①入院前後の生活する場所での暮らしを意識し、対象に必要な援助の計画・実践・評価・修正を行う ②複数の患者を受けもつことで、一般的な高齢者の特徴の理解を深め、それと比較することで受けもち患者の個別性を捉え、看護に活かす ③日々の受けもち患者への看護実践から、よりプライマリーのその人らしさを活かした援助を実践する 【学生の動き】 ◆事前準備 ・老年看護学実習Ⅰでの学びの確認 （身体的・心理的・社会的変化、発達課題など） ・実習を始めるにあたっての現在の高齢者観の確認 ◆実習オリエンテーション ・実習目的・目標の確認 ・実習病院・病棟の説明およびリハビリ室を含む実習環境の確認 ・病棟の特徴（病床数・入院患者の発達段階や健康障害、治療）、職員構成、看護体制についての理解 ・病棟の業務の流れと学生の動きの確認 ・病棟の構造・環境の見学、学生の使用物品（場所・使用方法）の確認 ・カルテや電子カルテ使用の注意点について確認 ◆受けもち患者理解 ・受けもち患者（プライマリー）の決定、挨拶 ・患者のリハビリを含めた１日の時間の流れの理解 ・患者の安全を守るための方法や安静度の理解 ・カルテや電子カルテから患者の情報収集 ・受けもち患者の経過・機能障害・治療の理解、情報の整理 ・看護師から現在の問題点、実践している看護援助の申し送りを受ける ※老年看護学Ⅰ実習で得られた、学びの活用を行い老年期の対象理解に繋げる。 ◆翌日への準備・確認 ・疑問に対する確認	複数患者の関わりから見えたその人らしさを援助に活かすことができる	事前学習 老年看護記録 ミーティング 面接 ポートフォリオ

	・情報収集した内容の整理 ・明日の実習目標・計画の立案 ・受けもち患者（プライマリー）が地域でその人らしく暮らしていくために必要な看護計画の立案		
看護チームの一員として、役割をはたしている	①同じ対象者への視点を看護チームで共有することで、多方向から自己の視点・思考を深める ②日々、対象に必要な援助の継続が行われるために必要な行動・工夫を自ら考え行う ③看護チームの一員としての役割を意識し、病棟看護師と学生間・学生と学生間での協働のために自ら意識し発信していく 【学生の動き】 **◆チームの一員としての役割を行う** ・実習場所の看護体制、病棟のケア、時間の流れの理解 ・病棟看護師の行動の理解（報告・相談のタイミング、時間への意識） ・医療スタッフと相談・調整しながら対象への看護実践をより深めていく ・ミーティングの開催・参加、意見交換、助言を得る機会に対して主体的に行動する ・チームケアを行う一員としての情報の提供・共有・相談 ・前日の担当学生から、患者カルテ情報、申し送りをもらい情報共有を行う **◆担当看護師へ申し送りと学びを伝え、助言を受ける** ・実践した看護援助から見えた対象理解の報告 ・得られた助言から対象理解を深め、申し送り・情報共有する必要のある内容を考える **◆学生チームミーティング** ・本日の看護援助から見えた対象理解の報告 ・患者理解のチームでの共有 ・臨床指導者・教員より助言を受ける **◆ミーティングの実施**：テーマミーティングを学生が希望する場合、学生主体で企画・運営・調整を行い実施する	継続する看護実践のために看護チームでの協働が出来る	老年看護記録 ミーティング 面接・実習状況 時間調整・相談状況
対象のねがう生活に近づけるために必要な社会支援を探求し自ら関わりを持ち活用している	①地域で安心した生活が行えるために必要な支援に気づき、自ら情報を得られる ②対象を取り巻く人たちの思い・関わりを知り、対象の生活を支えるために多職種との連携を意識できる ③対象のねがう生活に近づけるために得られた情報を看護に活かす 【学生の動き】 **◆多職種が行う会議への参加** ・看護スタッフ・多職種・家族と患者などの会議への参加（病棟カンファレンス、担当者会議、リハビリカンファレンス・家族会議・退院支援・家屋調査、介護認定調査など） ・患者理解の共有から多職種連携の実際を知る ・他職種の活動内容、対象への影響、目的・目標の確認 ・対象を取り巻く人たちが抱いている目標、思いやねがいの傾聴から各職種の役割を深める ・家族看護の状況把握、生活環境の実際の理解	目的をもって対象を取り巻く人と関わり得られた情報を活用できる。	老年看護記録 ミーティング 面接 時間調整・相談状況

	・対象の保健・医療・福祉制度の利用状況と本人・家族の思いの理解 ・対象の生活に及ぼす要因の実際から、必要な社会資源を考える ・活用している社会支援の内容の理解・確認 ・他職種との連絡・相談・調整を自ら行い情報を得る ・地域でその人らしく暮らしていくために必要な看護の実践に向けて自ら情報の発信を行い、助言を受ける		
看護職としての役割を対象の暮らしを意識した看護実践から表現する	①学生チームメンバー、看護師間、多職種との関りから受けもち患者の個性に合わせた看護援助の実践を追及することができる ②日々の看護実践から見えた対象への気づき・思い・考えを、看護職としての視点から伝達ができる ③高齢者との関りから得られた気づきをポートフォリオに作成し自己の成長を意識できる ④地域でその人らしく暮らしていくための支援についてまとめ発表することで、老年看護の役割を見出すことができる 【学生の動き】 ・スタッフや指導者が抱いている高齢者看護観に触れる機会を得る **◆ポートフォリオの作成** ・実習中に調べたことや考えたこと・チームでの検討事項などをポートフォリオに残していく ・高齢者の特性に合わせた、工夫や予防、支援の役割 ・仲間の意見や発表から自己の老年看護の役割の視点を広げる ・実習のまとめの資料作成・発表 ◆実習の学びの発表 テーマ:「 地域でその人らしく暮らしていくために必要な老年看護の役割」を全員で発表 ・ポートフォリオからひもとき、自己の学びをＡ３の用紙に整理・まとめる ・発表資料の作成 ・テーマについての自己の学びを発表 ・メンバー同士の意見交換をすることで老年看護の役割についての考えを深め合う ・臨床指導者・教員より指導・助言を受ける **◆実習評価表の活用** ・実習中間評価の実施 ・評価したことで見えた課題への意識	地域でその人らしく暮らしていくための老年看護の役割を見出すことが出来る	老年看護記録 発表資料・発表 ミーティング ポートフォリオ

◆「地域でその人らしく暮らしていくために必要な老年看護の役割」の発表にむけて

1）ねらい：

・一人の患者を受けもつ老年看護学実習Ⅰで得られた学びを基に、複数患者との関わりやチームでの看護実践から見えた、高齢者の特性を活かした援助や受けもち患者に対しての個別性のある援助について振り返る。日々積み上げたポートフォリオを活用し、自己の学びのプロセスをひもとき、「 地域でその人らしく暮らしていくために必要な老年看護の役割」についてまとめ、発表する。

・発表の場で自己の学びを表現し、仲間の学びを知る。また意見交換を通して、地域でその人らしく暮らしていくために必要な老年看護の役割をより深める機会とする。

2）方法：

（1）ポートフォリオ作成：

・毎日の看護計画の実践や高齢者との関わりの場面から、高齢者の特性を活かした援助について気づいたこと・感じたこと・思ったこと・考えたことを、自己と照らし振り返り、表記した用紙をファイリングしていく（ポートフォリオの作成を行う）。

・最終日の発表テーマ「地域でその人らしく暮らしていくために必要な老年看護の役割」を意識しながら、積み重ねていきたい。また、これは自分の学びの足あとを残していくつもりで書いていく。10 日間の実習を終えた時の自分へのメッセージにもなる。

・発表資料準備にあたって、日々積み上げてきたポートフォリオをひもとき、チャートに活かす。

（2）病棟実習終了日、テーマ「地域でその人らしく暮らしていくために必要な老年看護の役割」について発表する。

・自己のあしあと（ポートフォリオ）を振り返り、テーマについて考え、まとめる。

・それらを手がかりに、自分の考えや意識がどう変化していったか見つめ振り返る。

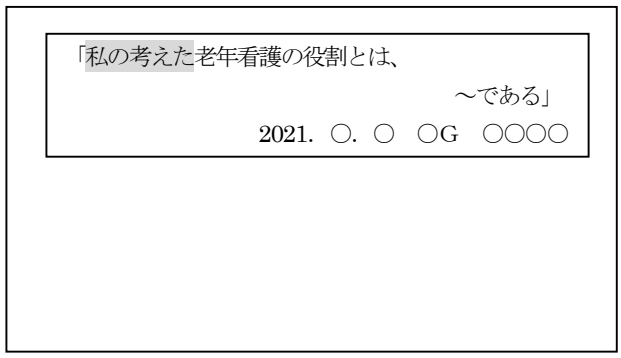
（3）発表作品の書き方

・表現の形式は自由。Ａ３用紙に作成。

・左上にはタイトル「 私の考えた老年看護の役割とは、　　～である 」を提示し、日付、グループ、名前を書いて完成させる。

・イラストを書き込んだり、内容を分類して表を作ったり、矢印を使ったり、様々な色を使ったり、工夫をこらして、自分らしい作品を完成させる。

・発表資料として、作成した作品をグループメンバー、臨床指導者、担当教員分の必要枚数をコピーする。　　例）



＊Ａ３用紙は縦でも、横でもよい

（4）病棟実習最終日に学びの発表を行い、意見交換を通して学びを深める機会とする。

Ⅴ　提出記録

① 評価表
② 発表資料・ポートフォリオ（老年看護学実習Ⅱ　記録Ⅰ　＊日付順にする）
③ １日の実習計画（老年看護学実習Ⅱ　記録Ⅱ　＊日付順にする）
④ 患者記録：老年看護学実習Ⅱ　記録Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ・Ⅶ
⑤ 体温表
⑥ 事前学習

＊指定された日時までに最終記録の提出を行う

Ⅵ　実習計画表

実習時間：8:30～16:15　　ミーティング：15:00～15:30

	1日目	2日目	3日目	4日目	5日目
実習内容	**オリエンテーション** 受けもち患者決定　・問題点聴取 （プライマリーナーシング） －看護援助 －　**学生A 担当** 情報収集 （看護師・医療者・PC・コミュニケーション・援助） ・受け持ち患者の問題点から看護計画の立案			**学生B 担当** 継続した看護の実践・修正	
提出記録	患者記録	1日の実習計画 患者記録 担当患者のケアプラン ポートフォリオ	1日の実習計画 患者記録 担当患者のケアプラン ポートフォリオ	1日の実習計画 患者記録 担当患者のケアプラン ポートフォリオ	1日の実習計画 患者記録 実践患者のケアプラン ポートフォリオ
cf	学生チームでの申し送り・スタッフとの情報交換 必要時、学生主体ミーティング				

	6日目	7日目	8日目	9日目	10日目
実習内容	**学生A　担当** 継続した看護の 実践・修正 実習中間日／評価日	**学生C　担当** 継続した看護の実践・修正		**学生A　担当** 継続した看護の実践・修正	午後：**学びの発表** 『地域でその人らしく暮らしていくために必要な老年看護の役割』
提出記録	1日の実習計画 患者記録 実践患者のケアプラン ポートフォリオ	1日の実習計画 患者記録 担当患者のケアプラン ポートフォリオ 評価表（中間）	1日の実習計画 患者記録 実践患者のケアプラン ポートフォリオ	1日の実習計画 患者記録 実践患者のケアプラン ポートフォリオ	1日の実習計画 患者記録 担当患者のケアプラン ポートフォリオ
cf	学生チームでの申し送り・スタッフとの情報交換 必要時、学生主体ミーティング				**学びの発表** **（メンバー全員）**

記録提出：　　月　　日　　時　　分　までに

老年看護学実習Ⅱ　評価表　　学籍番号：　　氏名：

学習活動	具体的な評価規準	観点	評価資料	評価基準			
				すばらしい	よい	もう少し	今一歩努力を要する
高齢者の特徴や受けもち患者の個別性を尊重した援助の実践をする	複数患者の関わりから見えたその人らしさを援助に活かすことができる	対象理解 実践力	事前学習 老年看護記録 ミーティング 面接 ポートフォリオ	複数患者の関わりから、援助を振り返り、受けもち患者を尊重した援助の実践をしている 20	複数患者の関わりから見えた、対象の強みを活かした援助の実践をしている 15	対象が持つ可能性と危険性を踏まえ強みを活かした生活援助ができる 10	得られた対象理解への情報を日々整理し考え表現している 5
看護チームの一員として、役割をはたしている	継続する看護実践のために看護チームでの協働ができる	探究心 実践力 調整力 倫理観	老年看護記録 ミーティング 面接・実習状況 時間調整・相談状況	看護チームの一員として自らの役割を果たし協働している 25	継続した看護実践のために看護チームとの情報共有にチームの一員として自ら仲間に働きかけている 17	受けもち患者の看護実践のためにチームの一員として協力することができる 10	得られた情報から看護実践が行え、実施したことを表現することができる 5
対象のねがう生活に近づけるために必要な社会支援を探求し自ら関わりを持ち活用している	目的をもって対象を取り巻く人と関わり、得られた情報を活用できる	調整力 実践力 倫理観	老年看護記録 ミーティング 面接 時間調整・相談状況	多職種と関わりながら、得られた情報を活用して看護者としての役割をはたしている 20	多職種と自ら関わり情報を共有し看護に活かしている 15	対象のねがう生活に近づけるために必要な情報を自ら発見し情報を得ている 10	看護スタッフから社会支援に必要な情報を得て関連づけている 5
看護職としての役割を対象の暮らしを意識した看護実践から表現する	地域でその人らしく暮らしていくための老年看護の役割を見出すことができる	探究心 倫理観	老年看護記録 発表資料・発表 ミーティング ポートフォリオ	高齢者がその人らしく地域で暮らしていくために必要な役割について場面を活かして表現している 25	高齢者が地域で暮らしていくために必要な役割について自己の考えを表現している 17	高齢者の生活を支えていくために必要な看護の役割・機能を表現している 10	老年期の看護の特徴を表現している 1
看護の対象や仲間の尊厳、安全を護り、医療者として誠実に行動する	医療者として常に看護の対象や仲間の尊厳、安全を護る行動がとれている	倫理観	日常の行動 実習の様子 課題等提出物 出席状況 面接	医療者として看護の対象や仲間の尊厳、安全を護るために適切な行動をとり、仲間の模範となりチームをけん引している 10	医療者として看護の対象や仲間の尊厳、安全を護る行動を心がけている。至らない時は学び、行動を変えている 5	社会的規範は守るっているが、看護の対象や仲間の尊厳、安全を護る意識が低い 0	自分の行動が看護の対象や仲間を危険に曝している 0

欠課時間
(　　)時間／90 時間

	学生	指導者
中間評価	点	点
総合評価	点	点

実習指導者サイン

担当教員サイン